

2004年9月7日

報道関係各位

ノバルティス ファーマ株式会社

ノバルティス 移植医療への貢献20周年を祝う式典を開催

1984年から2003年に移植を受けた20人の移植者が、各年を代表して
それぞれの「いのちの贈りもの」のストーリーを発表

2004年9月6日、スイス・バーゼル発 - ノバルティスはウィーンで開催された第20回国際移植学会において、移植者を招待し、移植者の生活を改善するための20年間にわたる取り組みを記念する式典を催しました。

世界各国を代表する20人の移植者が、学会の特別シンポジウムとして開催された式典の主役でした。日本からは高田一幸さん(1990年に生体腎移植を実施)と徳永恵津子さん(1996年に肝移植を実施)が代表として選ばれました。高田一幸さんは、「移植により厳しい食事管理をする必要がなくなりました。今では好きな食べ物を食べることができます」と、また、徳永恵津さんは、「ネオール®により普通の生活が送れるようになり、とても幸せです」と、それぞれコメントを寄せられました(式典には、高田さんのみが参加されました)。

20人の移植者全員が紹介された後、心臓移植を受けたオランダのWillem Bavinckさんは、ノバルティスが過去20年間にわたって移植の成功に大きな役割を果たしてきたことに対し、感謝の気持ちを示しました。「私は1983年にシクロスポリン®の投与を受けたヨーロッパで最初の移植者の1人でした。私が移植を受けた時に、移植者の生命を救う薬が世の中にあったことは、本当に幸運であったと思っています。そして、ノバルティスのその献身的な取り組みに対して感謝します」

ノバルティスは20年前にサンディミュン®(シクロスポリン)を発売することにより、移植医療に革命をもたらしました。ノバルティスは現在、世界で最も多く処方されている免疫抑制剤のネオール®(シクロスポリンのマイクロエマルジョン製剤)を含め、世界のどの製薬企業よりも多く、移植医療に使われる画期的な薬剤の選択肢を医師と患者さんに提供しています。

全臓器配分ネットワーク(UNOS)主宰者のRussell H. Wiesner医学博士は、「20年前にシクロスポリン®が導入されたことにより、移植後の生存率が驚異的に高まりました。その結果、多くの臓器不全患者がその生存を可能にする移植の候補者となり、全世界の年間臓器移植数は過去20年間で劇的に増加しました」と述べました。

ノバルティスの移植・免疫チームは、臓器の拒絶反応を予防する新しい革新的な治療薬を開発することに全力を傾けています。これにより、最も幅広い薬剤の選択肢を移植を受けた方々や医師に提供するとともに、医薬品市場における世界的リーダーとしての地位を引き続き確保していくことを目指していきます。

上記の発表には、現時点での将来への予想と期待が一部含まれております。従って、その内容に関しては、また将来の結果については、不確実な要素や予見できないリスクなどにより、将来の結果が現在の予想と異なる可能性があることをご了解ください。なお、詳細につきましては、ノバルティスが米国証券取引委員会に届けておりますForm 20-Fをご参照ください。

ノバルティスは、医薬品とコンシューマーヘルスにおける世界的リーダーです。ノバルティスグループ全体の2003年度の売り上げは249億ドル(約2兆8,600億円)で、純利益は50億ドル(約5,770億円)、研究開発への投資は約38億ドル(約4,370億円)でした。スイス・バーゼル市に本拠を置くノバルティスは、約78,500人の社員を擁しており、世界140カ国以上で製品が販売されています。詳細はインターネットをご覧ください <http://www.novartis.com>

以上